

Notes on some Japanese algae X. Sci. Pap. Inst. Algol. Res., Fac. Sci., Hokkaido Univ. 3: 11-25.

\* \* \* \*

1970年6月奄美群島加計呂麻島で採集した紅藻の一種を近縁の種と比較検討した結果、本種を新種と認め *Liagoropsis yamadae* Ohmi et Itono と命名した。本種は胎原列が同化糸の先端に形成される事から *Liagoropsis* 属に所属すべきものであるが、胎原列の形態及び藻体に多量の石灰を沈着する事など従来から知られている当該属の他の二種とは明らかに区別出来る特徴を有している。

□大槻虎男：聖書の植物 A5 厚紙表紙，285 頁，挿図 18，パレスチナ植生図 2，巻末図版 13，教文館，1974，2,600 円。本書は植物学者であり，キリスト教徒である著者が，1964 年に親しく聖地を踏み，その自然に接して得られた成果で，まことに興味深い書である。聖書の植物を研究した文献は世界的に膨大な量にのぼり汗牛充棟もたただならずであるが，我国においては単行本としては，別所梅之助氏が内村鑑三氏の聖書の研究誌に連載（1901—1902）されたものをまとめて，聖書植物考（1921）として富山房から出版され，最近覆刻されたものと，松村義敏氏の聖書の植物（1953）がある位である。この時に自から現地を踏査された結果をまとめられた本書は，前二者とは異り実地に於たって出来た独得のものであり，また興味多い挿図があるので楽しめる本である。（久内清孝）

□初島住彦：琉球植物誌（追加・訂正）Sumihiko HATUSIMA: Flora of the Ryukyus (Added and Corrected) 沖縄生物教育研究会 1975, 28,600円。これは1971年の同名の書 (pp.1-866) の追加訂正版である。前者にはすでに“追加と訂正 (1971年7月)”が含まれているので，新たに“追加と訂正 (Ⅱ)”として巻末 pp.867-923 が加わり，その中に文献目録（追加 2）pp.917-923 を含んでいる。その他，この版への序文 1 頁分がふえ，また人物，植物の写真の一部およびカラー写真全部は取りかえられた。広大な琉球列島の植物誌が，かくの如く訂正されながら出版されるのは一般利用者にとって慶賀さるべきことである。所が，同じ利用者で既に旧著を購入したものは，全体から見れば僅かの追加訂正分からの知識を得るために高価な代償を払わなければならない。これに似たことは大井次三郎博士の日本植物誌や小生の日本樺集にも起っている。著者としては誤を正し，新知見を追加したいのは当然であるが，読者本位に考えればどう云うことになるのであろうか。出版社の方の条件は，必ずしも著者の自由にならないこともあるであろう。小生はこの矛盾を何とか解決しようと思い，増補訂正分の別刷を別に注文して，購読者に配布したが，これとても不特定の一般の読者には，出版社の側の協力を得られたとしてもなお対応策がないのである。しかしこの面では出版社の協力は得にくい現状である。（津山 尚）